

## 「2030 年アジア NO.1 の国際文化都市を目指して」

公益財団法人大阪観光局

理事長 溝畑 宏 氏

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました溝畑です。年度末のお忙しい時にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、今日ご来場の皆様、万博を約 7 年間準備いたしました。皆様には様々な形でご協力、ご支援いただきましてありがとうございました。

そして、特に私も「なぜ大阪でこんな仕事をしているのか」ということを少々申し上げますと、元々出身は京都で、そこで育ちました。私は両親に大変感謝しております。父は京都大学で数学を学んでいる時に、学徒出陣でまさに中国に行きました。あと 2 週間戦争が延びていけば、父は戦場でもしかすると命を落とすというほど緊迫した状況で戦場に向かっていきました。いつも父が言っていたのは、「こんな戦争には絶対に行きたくない、死にたくない。もっと数学を勉強したい」ということでしたが、当時は両親もそれを言えない状況でした。そういう中で、戦争からなんとか命を繋いで帰ってきました。やはり先輩方の遺書も私に見せられましたが、私の親父が尊敬する先輩の遺書にあった一節には「戦争は絶対にやってはいけない。とにかくこれから日本は学術、文化、ものづくり、こういう分野で世界から尊敬される国になるのだ。何をやるにも世界で活躍する人間になるのだ」とありました。それが、私の尊敬する父が尊敬する先輩からの遺書でありました。

そういう親父に育てられたので、子供の頃から「世界平和」を掲げ、いつも地球儀を回しながら、「お前が目指しているのはこんな米粒みたいな京都のちっぽけな場所じゃないぞ。世界だ。世界に歴史を残せ」と言われていました。当時、子供の私にとっては「なんでこの親父は堅苦しいことばかり言うのか」と思っていたのですが、そういうことを朝食、夕食でずっと言われておりました。

また母親は、九州朝日放送のアナウンサーをやっておりました。「人生は一回しかないから、目立って目立って目立ちなさい。

目立つことによって道は開かれる。迷ったら勝負しなさい」と。そして、「とにかく周りを共感させなさい。そのためには一つのことを成し遂げる必要があるが、一人ではできない。みんなをどうやって巻き込むのか。そのためには誰よりも熱い思いを持ちなさい。やると決めたら最後までやり通しなさい。どんなことでもやると決めたら自分で責任を取りなさい」と言われました。妬みや悪口、愚痴を言おうものなら、恐怖の一本背負いと共に「出ていけ」と外に放り出される、そんな生活でありました。ただ、やはり親父は自分から見て尊敬できる人間だったので、いつもその背中を見て「嫌なやつだ」と思いながらも、「親父を抜きたいな」という思いで生きてまいりました。

やはり教育というのは大事ですよ。子供の時にどんな会話を受けるかで、その子供の人生の約 8 割が決まるのではないかと思います。そしてその後、やはり京都という風土で育ったので、コミュニティが非常に発達していました。子供の頃から礼儀作法について、「半径 5 メートルの人を幸せにしなさい」とよく言われました。「半径 5 メートルにいる人を喜び、幸せ、感動の枠に入れることが、幸せの輪を作るんだ」と。これは近所のおじいちゃんからいつも言われておりました。

そこで学校ですが、子供の頃 3 年間ヨーロッパにいたので、その時の体験が自分の人生の軸にあります。常に、どんな分野でもやるのなら世界一を目指す。そして、物事には必ず目標と夢を持つ。夢を持ったら絶対やり通す。年齢に関係なく、やると決めたら自分が責任を取る。そして、その成功のイメージを持つためには、そこに居続けては見つからない。次に母親の教育ですが、「3 歳の子供のような素直な気持ち、学ぼうという気持ちをいつまでも持ちなさい」と言われました。こちらには経営者の方々も多くおられると思いますが、「これ面白いな、楽しいな、感動するな」という感性がなくなったら、私も経営者を辞めたほうが良いと思います。やはり最後はビジネスで

あれ行政であれ、人を幸せにする、感動させる、喜ばせる。それをマネタイズしていくことが経営なのです。ということは、やはり大きい夢、人が喜び感動を与えるようなサービスあるいはコンテンツ、それを考える先見の明。これはズバリ言いますと「遊び心」です。

遊び心のない経営者は、機械と一緒にです。愛もないし、情熱もない。だから組織が硬直していくわけです。ということから、やはり子供の頃から自由闊達に考える。私の組織でも「これやるぞ」という時の私の判断基準は、まず「おもしろいか、楽しいか」です。それをおもしろいと思ったら、道がない時に道を作る。「一流は道を作る。二流は道を選ぶ。三流は道に流される」ですから、資源のないこんな小さい国がやらなければならないのは、道を作っていくことです。道を作ってそのプラットフォームになり、結局そこでポジションをしっかりとっていく。これは経済、外交、全ての面において、この小さな島国が持っていなければならない生きる道だと思っています。そういう意味で親父が言いたかった「どんな分野でもいいから世界を引っ張っていきなさい」というのは、小さな国が大国に勝とうと思えば、それなりのポジションを取らなければならないということです。今の世界情勢で「あっち向いてホイ」を繰り返すのではなく、どうやって自分たちの立ち位置を作っていくのか、どうやって世界を引っ張っていくのか。そろそろ戦後から時間が経ち、「俺たちの日本をどうするのか」ということを真面目に考えなくてはいけない時代に来ていると思っています。

子供の頃からそういうマインドを受けているので、役所に入ってから「日本を良くしたい、そのためには地方を良くしなければならない」という考えから、私は大分県に 20 年近くいました。人口 120 万人の都市をどう開発するか、どうすれば地域の人たちが住んでいることに誇りを持つのか、どうすればこんな小さなものを世界のマーケットに持っていけるのか。この知恵出しをしようということで、それこそ「一村一品運動」を行いました。

麦焼酎は大体 4,500 円の安い瓶のものでしたが、それをどうすればおじさんの飲み物からカップルの飲み物になるのか。そのために瓶を少し小綺麗なものにしました。ネーミングは「下町のナポレオン」。それまでは「三和酒類 麦焼酎」としていたのですが、ネーミングで勝負だと。コマーシャルも明るい感じにして、ビリー・バンバンを起用したりしました。そんなことで、

全ての分野においてイノベーションをしていきました。日本の地方もそうですし、企業も、今あるものをどう磨くのか、どう独自性を出すのか、どう突き抜けるのか。これが勝負だと思います。これは大分で徹底的にやったことです。

大学を作るにしても、アジアナンバーワンの大学を作ろうと「立命館アジア太平洋大学 (APU)」を作りました。30 年前、留学生が半分という大学は全くありえないと言われていました。しかし、ハーバードに行けば留学生が 3 分の 2 以上です。ハーバードを抜くにはどうすればいいかと考え、大分に留学生を半分以上、外国人教員を 4 分の 3、全て英語教育という形にしました。30 年前にこれを言った時は、文科省もみんな「こいつはアホか」という目で見えていました。やはり常に世界の高みを目指そうと思えば、目標設定をしっかりとっておけばその領域に行けるのです。やる前から「人口が少ない、金がない」と、大体みんな他のせいにしてがちです。

私がやってきたのは、とにかく「大分から日本を変えてやる」ということです。J リーグでチームを作って優勝するぞと言って、優勝しました。ワールドカップを呼ぶぞと言って、2002 年ワールドカップ、これも韓国や色々な国と戦って開催いたしました。

その後観光庁に移り、観光にはこれだけ資源があるのになぜ観光産業が停滞しているのかと考えました。運輸業界という狭い業界でやっていたものをオールジャパンでやっとうと。国民に知らせるために「嵐」を起用しました。私が 1 万回「観光だ」と言うよりも、あの大野君や二宮君が「みんなで日本観光しましょう」と言えば、絶対に影響力がありますよね。当時は嵐と一緒に PR したり、秋葉原へ行って AKB と一緒に歌いながら登場したり、とにかく動きました。

やはりリーダーの仕事は、リーダー自身が組織の光を放つことです。大人しく立っているリーダーには、誰も感動しません。だから私も営業の部下には「会った時にどうやって自分にインパクトを出すか。衣装、体格、喋り方、全てが繋がっていく」と言っています。自分を高め、企業の価値、個人の価値、都市の価値を高める時に必要なのは、常に高いところを見ていることです。何が足りないかという点に踏み込んでいくことです。課題がいっぱいある時に、課題だけを言って「しんどい」と思うのではなく、その課題をどうやって潰していくのか。その時に必要なのは「これをやれば自分も楽しい、お客さんも楽しい、地域も幸せになる、みんなが幸せになる」という視点です。そして、

どうやってお金が回る仕組みを作るか。これは行政であれ民間であれ、共通の課題です。

ご存知のように、今日本の経済は、30年前は一人当たりGDPが1位、2位だったのが、今は34位です。借金は一人当たり1400万円です。実質賃金も今や台北、バンコク、ソウルに完璧に抜かれています。日本自身が魅力ある国ではなくなりつつあります。

私は日本国民として「これは変えなあかん」と。大阪から日本を変えようという一念で、今から10年前、当時橋下さんと松井さんから「大阪変えようや」との一言でこちらへ参りました。大阪に住んだこともないし、知っている人もほとんどいない状況でした。ただ、なぜ大阪に魅力を感じたかと言えば、大阪は1500年前に早くから日本の文化を取り込み、多様性を非常に持っていたからです。商業都市として江戸時代は菱垣廻船、北前船で日本各地の主要都市から特産物を大阪の市場に持ってきて売りました。そこにあったのはまさに「自分たちはハブであり、台所であり、玄関口だ。さあみんな持ってこい、みんなを幸せにしてやる」という、今でいう日本のキャピタルのようなマインドがあったのです。

そのマインドが、1970年の大阪万博で一度盛り上がりましたが、その後、経済的な低下が激しくなりました。一人当たりGDPや県民所得は、1970年の当時は東京の9割だったのが、今は東京の6割です。1970年の日本全体のGDPにおける大阪の比率は10.2%だったのが、私が大阪に行こうか悩んでいた時の比率は6.7%です。正直言って経済が低下してしまっています。しかも今、スタートアップ資金の80%が東京に集まっており、大阪は3%、京都も3%です。この現象を見て、「これはやばいな」と思いました。特に関西の中心である大阪がこんな状態では、関西全体がどんどん低下していく。その焦りから、東京にいてオリンピック組織委員会で活動するか、大阪に来て関西の復興に貢献するかという選択で、私はこちらを選びました。やはり京都に住んでいたのも、関西愛を非常に持っていました。

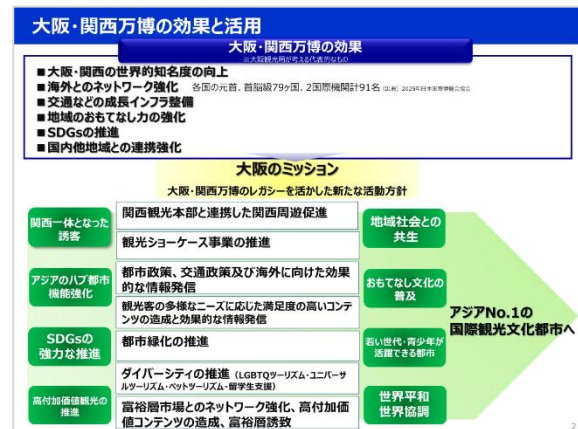
10年前に大阪に来た時、「2030年を目標にアジアナンバーワンを目指す」と15年後を見据えました。そこで生まれてきたのが万博誘致、G20、そしてIRです。また、それに伴ってなにわ筋線や関西国際空港の機能強化など、色々なプロジェクトが叶ってきました。やはりそこには「ここを目指すぞ」という旗印

が必要です。WBCもそうですよね、世界一になるぞと大谷翔平が言ったからこそ、国民が注目したのです。私は大阪という街が関西を牽引してアジアナンバーワンになることを目指しています。統治や金融などの分野は東京でいいのです、そこは正直勝てません。しかし、食、ものづくり、観光といった分野であれば、十分に東京に負けない、あるいは世界へ突き抜けることができます。

これを大阪がしっかりとやれば、大阪を中心に半径1時間以内に京都、奈良、神戸があり、関西というのは世界的にも素晴らしい観光資源と歴史があります。これによって東京一極集中というアンバランスな国土構造を変える。そういう意味で、これからの10年は最初で最後の大きな勝負です。

100年前は大阪市の人口は東京市より多かったです。その時、関一市長は「大大阪を作ろう」と言って、御堂筋を3車線ではなく6車線にし、地下鉄を整備しました。車社会が浸透する前からそうした遠大な夢を描いたのです。御堂筋には劇場を多く作り、かつては新今宮のあたりに国技館もありました。実は相撲の国技館も元々は大阪にあったのです。それほど大阪は伝統文化、技術、アート、スポーツ、ものづくり、全ての始まりでした。

私はこの万博というのは、もう一度原点に帰って大阪から日本を変え、世界で名だたる都市になり、世界に貢献していくためのものだと思っています。そして皆様の努力で見事に成功したと思っています。

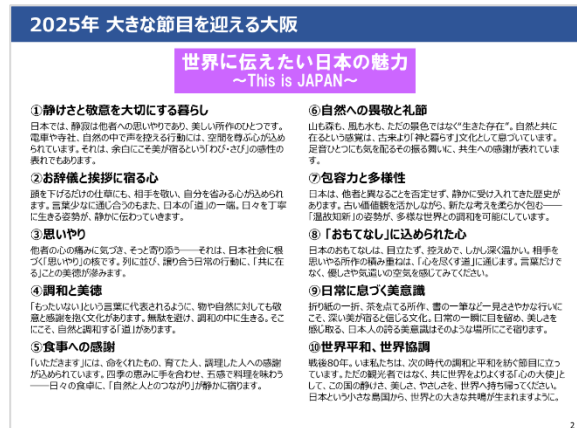


万博によって世界的な知名度が上がったことは間違いありません。またネットワークについても、世界160カ国が参加し、間違いなく構築できました。大事なのは「知り合えてよかった」という思い出で終わらせないことです。このネットワークを将来どう生かすか、大会前から仕込んでおく必要があります。私など

は中東との関係を強化したいと考え、サウジ、クウェート、カタールと徹底的にコミュニケーションを取り、サウジアラビアに「2030年のリヤド万博は一緒にやろう、ノウハウを持っていくよ」と中東を抑えようとしています。トランプ氏の影響などで現在は大変な状況もありますが、いずれは収まると考えた時、万博は様々な分野で将来のビジネスを作り、何より子供たちに夢を見せることができました。

次に交通インフラですが、地下鉄中央線の延伸がありました。港湾機能の強化についても、クルーズやスーパーヨットの誘致が進みました。また、関西3空港も発着枠が拡大し、神戸空港もいよいよ国際便が飛ぶようになります。関西 MaaS という形でタッチ決済などのDXも進みました。さらに、多くのボランティアやスタッフがこの万博を通じて経験を積み、おもてなし力が強化されました。カーボンニュートラル、ダイバーシティ、世界の融和と協調、様々なSDGSの分野が推進されました。日本の魅力を発信する事によって、大阪を中心に他の地域とのネットワークは強化されました。その上でこれからどういった活動方針をするかということですが、1つは、私たちは大阪だけでなく、関西2府4県を含めた大阪関西一体となってアジアのハブを目指すという時に、今後さらに鉄道そして海、空港の機能強化をして、世界に選ばれる都市に必要な魅力を強化していく、当然SDGSを進めていく、そして地域社会の共生。これは今オーバーツーリズムという言い方をしていますが、観光の原点はサービスを提供する人、お客様、地域住民みなさんがハッピーになる必要があります。そのために地域住民の方にどんどん参加してもらおう。ゴミが増えないようゴミ箱を作る。トイレをしっかり増やしていく。災害発生時に避難情報をしっかり示す。病気になるればどこの病院に行けばいいか示すという全ての住民が安心快適で経済的に潤っていく仕組みを作って行こうということです。大事なことは若い世代、私も子供のころ万博を見てこの世界観が大きくなりました。これから万博を見て若い世代に、あるいはこれからの若い世代にもっとこの国を良くしていく、世界に貢献していくような活躍の場を作らないといけないと考えています。そして大リングの上で160の国や地域が仲良く作業をしたわけです。平和の祭典をやった都市はどこ都市よりも世界平和、世界協調の意思を持たないといけない。だから、世界的に起こっている事に対して、自分がコミットしていくというマインドを持つことが、万博のレガシーだと思っています。

す。大阪にいて大阪だけ見ている、これは、私はレガシーとして最悪のパターンだと思っています。そういうことでアジアNO.1になるという意味は常に世界的視野を持ちながら日本の育成、大阪関西の育成を見ながら自分たちが主体的に周りの都市や地域を引っ張っていく、これが最大のレガシーだと思っています。



そして、今私はこれを世界に伝えようと思っています。AI、ロボット、これはもう欧米とかインドに任せておけばいいです。私たちが世界に伝えるべきは、私たちが世界に勝てるもの、まさにこのマインドです。静けさと敬意を大切に、お辞儀と挨拶、思いやり、調和と美徳。食事への感謝「いただきます」「ごちそうさま」。食材、そこに至るまでの命、微生物から色々な生き物が脈々と引き継がれて食材になり、それが運ばれて調理人と色々な人の手を加えられて目の前に来るわけです。遡れば、皆さん「土」ってありますでしょうか？土は、ちゃんとできるのに100年かかるんですよ。落ち葉が落ちて腐って微生物が色々入って、そして豊かな土になるんです。そこでできたものを我々が食べているんです。ということは、多くの命の連鎖で食べているんですよ。この「いただきます」という自然に対する畏敬の念がこもった言葉。これこそ今、世界に一番必要なことです。「ごちそうさまでした」という感謝ですね。

そして、自然への畏敬と礼節と多様性、おもてなし、美意識。私は日本人の美意識が好きです。庭にちょっと何か置くとか、細かい、特にこれは四季の変化です。そして平和だから大らかなんです。戦争があるような所だったら、いつやられるかわからないから物を大事にする習慣はないんです。最後に世界平和、世界協調。この10個は、私がこの万博で色々な世界の話をして、「これこそ日本だな」と思ったのはこれです。皆様も他にあるかもしれませんが、こういう日本の唯一無二のものが

何かということ、私は万博で一番感じました。これを伝えていけたらと思っています。



このように温泉の源泉数が世界で第1位です。日本の温泉地と、温泉が非常に普及している国とを繋いで、温泉で世界を繋ごうということをやりました。あと日本の伝統文化である神事、相撲、忍者、これを各自自治体と連携して世界に発信をしました。



また空手、着物、お遍路、このお遍路文化というのも日本固有の巡礼という文化です。



また緑、これはSDGsという観点から、万博の「大屋根リング」「静けさの森」です。生態系が崩れる中で、日本は森林率が実

は世界で第4位なんです。この森というのはどこよりも素晴らしい富を創出します。食材もそうですし、里山があると、良い里山が良い川や海を作ります。だからこの国は食材が非常に豊かなんです。そういう森を守ってきた、生かしてきた、こういうものを世界に見せたいと思っています。



またこういう形で子供たちの国際交流、留学生を集めた交流会、ペットとの共生というイベントもやりました。



そしてビジネスマッチングとして海外との色々な交流もさせて頂きました。

**観光＝地域の総合的戦略産業**

観光とは、各地域独自の資源を掘り起こし付加価値を加え、広報や広告等により国内外に適用するコンテンツを創り、国内外からヒト、モノ、カネを集めることにより都市の魅力を高め、地域にとって持続可能な社会をつくる総合的戦略産業である。

■観光による経済効果

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
観光のGDPへの貢献度 <兆円>	36.7	37.3	38.2	40.6	40.8	18.4	22.7	36.8	41.3
日本のGDP(名目) <兆円>	540.7	544.8	555.7	556.6	556.8	538.8	554.8	568.6	596.5
観光の占める割合 <%>	6.8	6.8	6.9	7.3	7.3	3.4	4.1	6.5	6.9

日本でのGDPにおける観光分野の貢献度は7%前後(コロナ禍除く)だが、世界では**10%を超えており**、さらに成長可能な産業

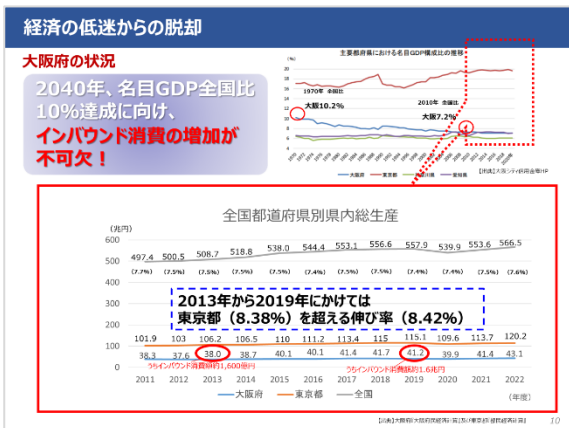
観光政策とは、都市政策、経済政策及び交通政策などの“まちづくり”を含む産業として国家戦略の柱と位置付けられており、都市魅力の向上や持続可能な社会を実現する上で極めて重要

そうした中で、先ほど私が申し上げた観光の位置付けですが、観光は今日本のGDPの約7%です。しかし世界は大体10%

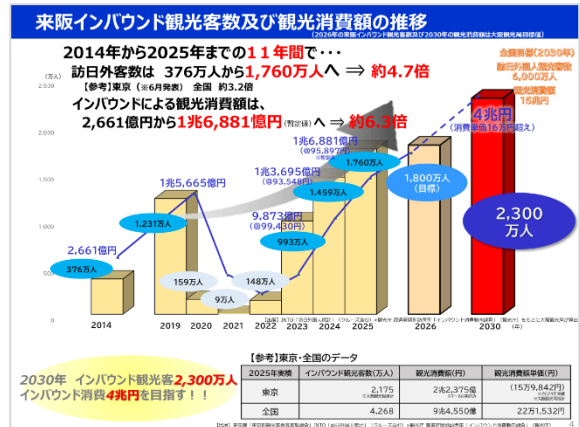
なんです。イタリアとかフランスは軽く10%を超えています。まだまだ観光は伸びしろがあります。



その中で特にインバウンド消費の2025年の数字は9.5兆円です。今や半導体、鉄鋼、自動車、こういう部品などの「物」を上回る規模になっています。しかも自動車は今約18兆円ですから、将来自動車産業にも肉薄していけるわけですね。



特に言いたいのは、1970年のGDP比率。大阪は日本全体の10%あったのが、私が来る前は6%台まで落ちていきました。今ちょっと上がってきました。この上がってきた大きい要因がズバリ、インバウンドなんです。インバウンドの消費がこの10年間で約1.4兆円伸びたんですね。これが間違いなく大阪のGDPの復活に貢献しています。

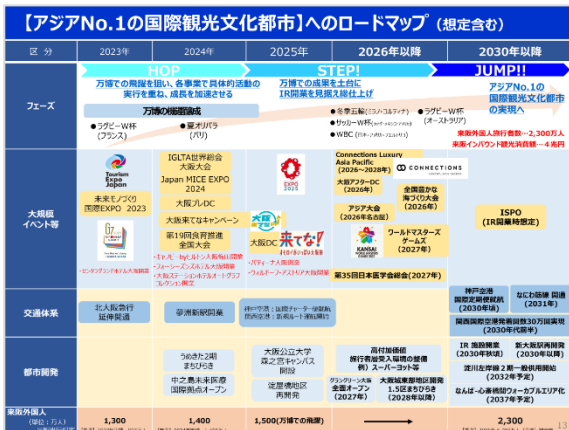


インバウンドの伸びが、以前は376万人だったのが、去年は1760万人。今年は今の政権では中国がおそらく厳しいです。ただ1月のデータを見ますと、中国以外の市場の伸び率が27.2%伸びているんです。仮に中国が50%で低迷したとしても、中国以外の市場、特に韓国、台湾、オーストラリア、東南アジアですね。この伸びが非常に良い。というよりも、やはり元々日本は人気があったんです。そこに一気に花が開いたという状態だと思っています。中国の問題、中東の不安はありますが、大局的に見ると2030年には、インバウンドを去年の1160万人から2300万人へ、あと消費額1.7兆円を4兆円に持っていくというのが、私たちの大きな経営目標になっています。



これも特筆すべきなのは、10年前は世界の都市ランキングで大阪はほとんど下の方もしくはランク外でした。でも皆様のご努力で、大阪は世界の主要な指標のトップ10に入りました。特に2025年のニューヨーク・タイムズ「世界で行くべき52箇所」に選ばれた理由は3つあります。1つは万博開催による都市評価、2つ目がグラングリーン大阪など都市部での緑化、3つ目がLGBTの受け入れなどのダイバーシティ推進です。これらが世界に行きたい都市として選ばれた要因になっています。しかし、大阪に何が足りないかという、大きく3つあ

ります。1 つは、私の目標は「住んでよし、働いてよし、学んでよし、来てよし」。これが最後のゴールですよ。そう考えると、なぜトップのところはまだ行けてないかと言いますと、1 つが環境です。緑が少ない。2 つ目が教育、特に優秀な子女をお持ちの外国人にとっては、インターナショナルスクールがほとんどない。だからほとんど今、優秀な子女をお持ちの家族は神戸か芦屋に住んでいます。理由として1 つはインターナショナルスクールがたくさんあること。もう1 つは住環境ですね。あと女性がのびのびできる。それからいい学校が多い。だから、ベースはできましたけど、まだまだ環境とか教育、文化、こういったところを機能強化しなければならぬというのが私たちの分析です。



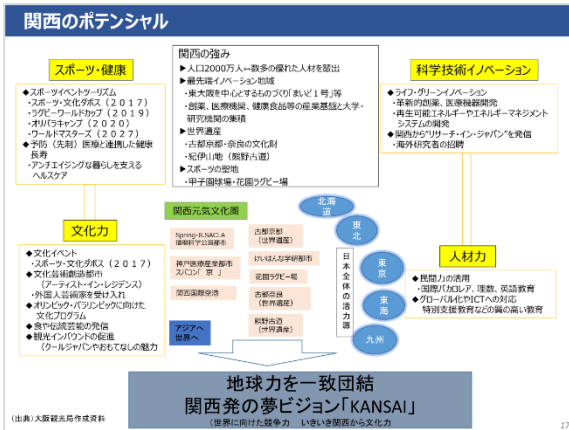
はい。ちょっと時間がなくてどんどん行きます。これが2030年ロードマップでございまして、やはり特筆すべきは万博があったおかげで、一流のホテル、かなり立派な超高級ホテルがどんどん誘致が決まりました。フォーシーズンズとか、ヒルトン、さらにはパティエナ、ウオールドーフ。このあたりがやはり万博とIRの開業ということを見据えてできました。そして万博が真ん中において、今後このIRがあり、さらには森ノ宮の方にも新しい開発があります。さらにはなにわ筋線が開通すること、あと神戸空港は2030年目途に国際定期便が飛ぶようになります。順調にこのハブ機能が強化されていっているということです。



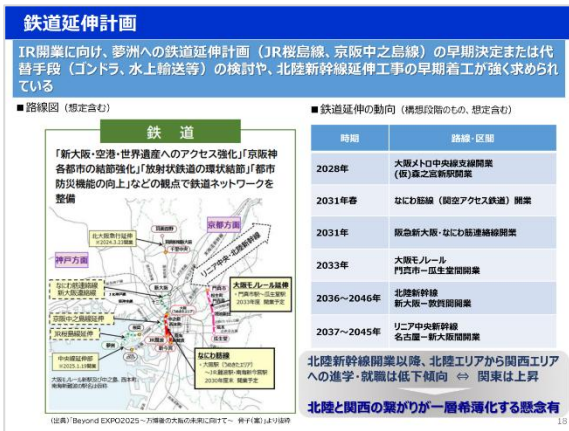
そんな中、私どもがやはり世界に選ばれるためにやらなくてはならないと思ってるのがSDGs。特に、高齢者、障害者、ユニバーサルツーリズム、LGBTQの受け入れ、そしてまたペットと共生できる街を作っていく。そして緑化環境とカーボンニュートラルですね。このハブ都市としての機能を強化するために、大阪を中心に関西周遊、全域送客をやっていくということを考えています。また、当然今はもうAI、ロボット、DXの時代ですから、できる限りお客様が安心安全、ストレスフリー、シームレスな環境を作っていくというような環境整備もしていこうということです。そしてまた、マナー啓発、ゴミ、トイレの問題をはじめ、いわゆるオーバーツーリズム対策もしっかりやっていくということですね。



やはり大阪の強みは2府4県のちょうど真ん中にあること、もう1つは瀬戸内との連携です。これは後ほど説明します。



このようにやはり国宝・重要文化財の大半がこのエリアに集積しています。しかもそういったおもてなし文化もあります。



鉄道については、地下鉄中央線の延伸も決まりました。あと、なにわ筋線も2031年に開通します。ただ、ちょっと頭を痛めているのは夢洲のUSJからこっちの大阪の夢洲に行くこの鉄道が、延伸が全く進んでないんです。これは、10年前からやるという話で進んでない状態です。あと京阪の乗り入れですね。ここがないと、大阪の中心部からぐるっと夢洲を巡回できる交通体系が出来上がらない。万博は来た人は大阪・関西の人が約7割から8割だったんですね。だからみんな地下鉄中央線に乗って行ったり来たりできて、うちの職場なんかは30回以上行った人が大半です。万博へ行ってなんで成功したかと言いますとね、行ってみたらほとんど知ってる人ばかりだったんです。だから盛り上がったんです。これで地方からはあまり来てないですよ、正直。ということは何が言いたいかというと、交通体系が、地元の通勤のついでに終わったら行こうというのがあったから、比較的あんまり中央線1本とあとこっち側のバスで対応できたんですね。しかしIRになってくると富裕層も多いし、地下鉄中央線の1本足打法だけではなかなか厳しいと私は思っています。したがって時間かかっても、この地下鉄の上のJRの

延伸を西九条からやることと、あともう1つは長い目で見ると北陸新幹線が早くこっちに降りてこない、福井県と石川県の人は今、目が関西よりも東京を向いています。というのは新幹線で直接行ってしまうからです。これには私は最近危機感を持っています。ですからリニアと新幹線の延伸、これを早期にこっちに持ち込まないと、北陸圏という所が主導権として東京に持っていかれるという危惧があります。



それから次がこれですね。大阪港、大開門に、スーパーヨットこれは今順調にいってます。1日200万円のお金落とすぐらいの富裕層が乗るスーパーヨット。これはかなり万博の効果で増えてきました。そして「ガンツウ」という、1泊200万円の広島で実施されている豪華クルーズです。これを今、大阪を母港にしようという動きをしております、去年2回大阪で実証実験があり今年も行います。できれば2030年には、夢洲か大阪港に瀬戸内を回るような周遊クルーズを実現したいと思っています。また、両備という会社がありまして、この会社は120人乗りで1泊60万の豪華クルーズをしようとしています。これも2027年の秋からスタートするというので、大阪を母港にしてほしいという動きをしております。とにかく2030年までに、京都から川を降りてきて、この大阪港から瀬戸内を回る。瀬戸内の世界的バリューはすごく高いため、私は瀬戸内との連携、これこそ2030年に向けての重要課題と思っています。

### 3空港の概要

	関西国際空港	大阪国際(伊丹)空港	神戸空港
設置・管理者	新関西国際空港株式会社	新関西国際空港株式会社	関西エアポート株式会社
開港日	1994年9月4日	1958年3月18日	2009年2月16日
滑走路	3,500m×1本 4,000m×1本	1,828m×1本 3,000m×1本	2,500m×1本
2024年 総旅客数	国際 2,392万人 国内 673万人	1,516万人	358万人
運用時間	24時間	7:00~21:00	7:00~23:00
年間羽田便 数	23万回	13.5万回(370回/日)	2.9万回(80回/日)
毎週羽田便 の発着 回数	約4,100回	約2,500回	約500回
2024年 の旅客 数	国際 2,392万人 国内 673万人	1,516万人	358万人
2024年 の貨物 量	約100万トン	約100万トン	約100万トン

2024年 航空旅客数 (アジア圏)

空港	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	2010年
羽田	8,500	7,780	7,628	7,636	7,121	6,795	6,796	6,223	6,147	5,710	5,490	5,482	5,975	5,365	5,515
成田	5,500	5,200	5,100	5,000	4,800	4,600	4,500	4,400	4,300	4,200	4,100	4,000	3,900	3,800	3,700

※単位:万人 (出典) IATA WORLD: 2025Annual World Airport Traffic Report/19

空港ですが、3 空港の機能を非常に強化しておりますが、2024 年は、この 3 空港は約 5000 万人で羽田・成田が約 1 億 3000 万人。実は我々の 2.4 倍も羽田、成田には来てるんですよ。そしてチャンギ空港、ここはさらに機能強化をしています。アジアのハブになるためには、いかにこの関西 3 空港のハブとして機能強化をするかです。将来的には伊丹空港の国際化ということ視野に入れて、3 空港の機能強化をする、これが大きな鍵を握ります。

### <万博での取組み> 日本の観光ショーケース

EXPO2025

～日本列島 大航海時代 観光は新しいステージ！～

温泉 健康・美・長寿 相撲 きもの 忍者 サイクリング フィッティング 鍾乳洞 日本酒

意義：日本の観光立国化に貢献、地方創生に寄与、地域の魅力伝承

大阪から日本各地の魅力を発信 (2025年万博、2030年以降)

そして先ほど言いましたが、テーマごとに送客をしましよということなんです。

### <万博での取組み> 日本の観光ショーケース

EXPO2025

日本が世界に誇る唯一無二のコンテンツを万博会場で発信

◆温泉 ◆健康・美・長寿 ◆相撲 ◆忍者

重複になりますが、日本の質の高いコンテンツを持っている

自治体と連携しながら送客していく仕組みです。

### スポーツによるインバウンドの誘客と国内プロモーション

2026年から2027年にかけては世界的なスポーツイベントが目白押しであり、2027年5月に開催される「ワールドマスターズゲームズ2027関西」に向けてスポーツを楽しむ機運を醸成

スポーツツーリズムの推進、スポーツビジネス・MICEの誘致に向けた新たな協力体制づくりを推進

2026年3月5日～3月17日 WBC 日本代表対アメリカ代表

2026年9月19日～10月4日 アジア大会 (延期・名古屋)

2026年3月6日～22日 ミナミコタテヤ冬季五輪

2026年6月11日～7月19日 サッカーW杯 (W杯・カタール)

2027年10月1日～11月13日 RUGBY CUP オーストラリア

2027年5月14日～5月30日 ワールドマスターズゲームズ2027関西

プロスポーツとの連携

プロスポーツ

スポーツプロモーション

プロスポーツとの連携

それから大阪の今年 1 年を考えましたら、やはりスポーツです。WBC があって、今大阪で大相撲やってますよね。来週はプロ野球開幕です。甲子園、ワールドカップサッカー、アジア大会、そして大阪ではワールドマスターズゲームズ、ラグビー。皆さんテレビも今沸いているのはスポーツでしょう。大阪は元々、プロ野球、プロスポーツがたくさんあります。スポーツをするコンテンツもたくさんあるということから、スポーツというものを観光ビジネスに絡めない手はないなと思っています。

### 市内ベイエリア(咲洲・築港・舞洲・夢洲)の活性化

成長可能性が最も高いエリアである夢洲をはじめ、咲洲、舞洲、築港地区及びその後背圏を含め各エリアの役割やエリア間の連携方策等を整理し新たなベイエリアの将来像を強く必要とする

関西国際空港 (2025年秋)

大阪湾海浜副都心 (2025年)

夢洲2期 開発 (万博会場)

大正

明神橋

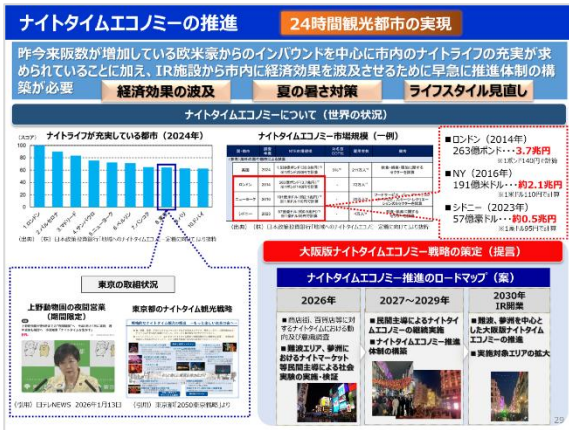
天王山塔展望デッキ (2024年3月)

スーパーヨット等誘致

THE JEWELRY (2025年4月10日開幕)

あとは大阪ベイエリア。夢洲では IR、夢洲 2 期、これが今後整備されていきます。IR については、カジノは一部ありますが、いわゆる高付加価値型の観光施設を作る。今夢洲 2 期では公募されていますが、案によりますとアリーナとか、F1 を見据えたサーキット場、スポーツエンターテインメントゾーンというようなものをホテルと共に考えているということですね。この IR との相乗効果によって、質の高い観光のゾーンができるということです。夢洲はそれで潤っておりますけど、舞洲はスポーツの拠点ではあるんですけど、施設がほとんど老朽化しています。オリックス・バファローズの選手に聞いたら「シャワーがたまにブーンと止まってしまう」とかですね。だから舞洲をどうして





さらに次はナイトタイムです。私は昔から、ナイトになると思い切り遊んだ男です。大学時代は野球部で野球をやって、終わったらディスコで朝 5 時まで踊っていました。仕事の時も霞が関で夜中の 1 時に仕事が終わって「これからが本番や」と遊びに行っていました。私が言いたいのは「遊ぶ」という意味はいろんな意味があるということです。普段会えない人と会えるし、夜は純粹になれるし、いろんな交流をする、あるいは想像力を生かせる、あと恋愛するのはやはり夜です。そういう意味で言うと、夜をネガティブに見るのではなくて、夜をもっとポジティブに経済に生かしていくということをやろうと思っています。

なぜかと言うと、1 つはインバウンドの訪問客がナイトタイムを求めているからです。2 つ目が夏は暑いですよね。昼間は外で観光なんかできないから夜にもっと楽しもうよということですね。他の国はナイトタイムでこれだけの大きい経済を生み出しているわけです。



これを進めていこうということで、今年の夏、夢洲のエリアと難波の 2 箇所では実証実験が行われる予定です。夢洲の方はちょうど万博の入り口の前のスペースに屋台を呼んだりイベントをやって、要するに IR が来たらあのエリアがもう 24 時間になるわけですね。そのためのチャレンジをここで始めよう。そし

てここで遊んだ人が IR だけに集中するのではなくて、どんどん各地へ行ってもらう。そのためにまず難波と組んで、両方連携を取って夜遊ぶ仕組みを作っていくということで、これを今準備しています。本格的にやるには消防、鉄道、いろんな協力がいらいます。何よりも事業者の皆さんが「これやったら赤字になる」ということに対して「大丈夫だよ」とする仕組みが必要になってきます。でもずっとこれ 7 年間、私たち課題ばかりしか積まなかったんで、この 8 月からこれを始めて、2030 年にはナイトタイムエコノミーというのを、夜安心して遊べるというようなことをしたい。特に「夜大丈夫だよ」というライセンスなりフラッグを店に与えて、それをお客さんに示したいと思ってます。

**大阪 IR のスケジュール**

年	月	内容
2023年	4月	区域整備計画の認定 (国)
	9月	IR関連協定等の締結
2024年	9月	事業前提条件に基づく解除権の失効
	10月	IR準備工事の発注及び着手
2025年	4月	IR建設工事の発注及び着手
工程 (想定) ※		内容
2030年	秋頃	IR施設の開業

※ 工程が最も早く進捗した場合の想定

式典会場

(仮称)大阪IRプロジェクト 起工式

**IR施設の規模**

区分	施設種別	延床面積	施設構成・規模
1号施設	国際会議場施設	約94.0万㎡	最大収容定員6,000人以上収容
2号施設	展示場施設	約33.3万㎡	展示面積2万㎡ 関西国際空港
3号施設	魅力創造施設	約91.2万㎡	ガーデンタワー 関西フットボールスタジアム 三層特等客席 ジャズクラブ/フットボール 関西アート&カルチャーミュージアム
4号施設	送客施設	約91.2万㎡	関西タワー/センター バスターミナル/エコーターミナル
5号施設	宿泊施設	約26.7万㎡	客室約2,500室 レストラン、バー、フィットネス 大浴場、ジャズクラブ等
6号施設	エンターテインメント施設	約1.5万㎡	夢洲シアター 約3,500席
	飲食・物販・サービス等施設	約32.7万㎡	飲食施設、物販施設、駐車場、エネルギーセンター等
カン/施設		約7.0万㎡	※うち、カン/行為区域は延床面積の3%以内
延床面積		約78万㎡	

※ 出典: 大阪・夢洲地区開発計画(仮称)の概要(案)に関する計画について(概要)より

最後は IR です。IR については、カジノは確かに一部入っております。目指している施設は、約 1 万 2000 人収容できる国際会議場、展示場、あと日本の伝統文化、食文化、茶道、華道、香道、アート、こうしたものを発信できる施設を作ろうということ、各地への送客施設の仕組み、あと 2500 室のホテル、この 2 割以上がスイートなんです。劇場があって一流の飲食物販の施設があります。

### 大阪 I R 区域整備による経済的社会的効果

観光の効果		効果を最大化するための主な取組み	
I R 区域への来訪者数	約2,000万人/年 国内：約1,400万人/年（約70%） 国外：約600万人/年（約30%）	<b>MICE 事業</b>	
国際会議の開催件数	約485件/年 （ICCA基準9年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ MICE の開催による効果強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大阪・関西の強みを生かす100選推進地域特定。MGMの誘引を強化して、観光客の滞在期間を延ばす等の効果強化を図る。</li> </ul> </li> <li>◆ MICE 施設へのインバウンディング施設の設置               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インバウンディング施設の設置により、ビジネス支援プログラムの提供やビジネス交流機会の創出を図り、関西の「ベンチャーエコシステム」の強化に貢献する。</li> </ul> </li> <li>◆ 戦略的マーケティング               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大阪観光局や地域のDMO等との協同連携、官民連携の推進、シティブリーダーの協働による効果強化。</li> </ul> </li> </ul>	
国際的評価の顕示会等 の開催回数	約46回/年 （ICCA基準4年）	<b>送客促進</b>	
送客施設を活用した旅行客数	約4.3万人/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 送客施設の設置・運営               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 送客施設に対する日本観光への関心・期待の喚起、旅行の企画・提案・予約の効率化、大阪 I R 区域への利便性の高い送客プログラムの構築等の工夫を行う。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>地域経済への効果</b>		<b>旅行消費</b>	
初期投資額	約1兆5,130億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ハイカラシティの施設やコンテンツの創出と都市魅力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 高級品の創出施設、比較的高級なホテル・レストラン、高級飲食施設、スポーツイベント等の魅力あるコンテンツの創出・推進を図る。</li> </ul> </li> <li>◆ 観光の振興に関する取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光客の誘引・滞在期間の延長、観光客の消費の促進、観光客の滞在期間の延長、観光客の消費の促進、観光客の滞在期間の延長、観光客の消費の促進。</li> </ul> </li> </ul>	
経済波及効果（建設時）*	約2兆3,700億円	<b>地域経済</b>	
経済波及効果（運営時）*	約1兆1,400億円/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地元産品の消費、地元企業・中小企業の支援（ビジネスマッチング等）               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域企業・観光客の消費による地元企業・中小企業への消費・投資の促進を図る。また、地元企業との協働による効果強化を図る。</li> </ul> </li> <li>◆ 観光客の消費の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光客の消費の促進、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進。</li> </ul> </li> </ul>	
雇用創出効果（建設時）*	約17.5万人	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 観光客の消費の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光客の消費の促進、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進。</li> </ul> </li> </ul>	
雇用創出効果（運営時）*	約9.3万人/年		
I R 区域来訪者数による I R 区域滞在者の支出金額	約96,600億円/年		
地元消費額（建設時）*	約1兆3,100億円		
地元消費額（運営時）*	約2,600億円/年		
雇用者数（I R施設）	約1.5万人		

（注）\* 大阪・関西国際空港整備と観光客誘引施設の整備に関する計画について（概要）より

この施設をやる時に今後の課題は何かということをお話ししておきたいと思えます。効果は絶大だと私は見えています。観光客が2000万人来る、インバウンドは600万人、ほとんどが富裕層で大きな投資が行われますし、これだけの雇用を生み、1年間の経済が約1兆円を超えと言われています。そして地元調達額、必ず地元にお金を落とせということで、発注を地元枠ということで想定しています。雇用も全部で約9万人の雇用効果があると言われています。

### 納付金・入場料等の見込み額及び使途

納付金等の収入見込み額（大阪府・大阪市合計）													
◆ 約1,060億円/年（納付金：約740億円/年、入場料：約320億円/年）													
⇒ 大阪府・大阪市で均等配分（大阪府：約530億円/年、大阪市：約530億円/年）													
※ 上記のほか、大阪府・市の徴収見込み：約160億円/年（大阪府：約50億円、大阪市：約110億円）													
納付金・入場料の使途													
<p><b>&lt;必要経費&gt;</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使途</th> <th>毎年の必要経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キーンル等依存症対策（大阪府・大阪市） （CATSを中心とした新規・拡充事業）</td> <td>約14億円</td> </tr> <tr> <td>警備強化（大阪府） （警備力の確保・増強・訓練、 市内の警備用具等（約340人体制））</td> <td>約33億円</td> </tr> <tr> <td>夢洲エリアの防犯（大阪府） （I R 立地に関連した必要事項の維持管理）</td> <td>約4億円</td> </tr> <tr> <td>消防強化（大阪府） （夢洲消防拠点の設置・運営（約40人体制））</td> <td>約4億円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約55億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ 不測の事態等に備え、納付金等の一部を基金に積立</p>	使途	毎年の必要経費	キーンル等依存症対策（大阪府・大阪市） （CATSを中心とした新規・拡充事業）	約14億円	警備強化（大阪府） （警備力の確保・増強・訓練、 市内の警備用具等（約340人体制））	約33億円	夢洲エリアの防犯（大阪府） （I R 立地に関連した必要事項の維持管理）	約4億円	消防強化（大阪府） （夢洲消防拠点の設置・運営（約40人体制））	約4億円	合計	約55億円	<p><b>&lt;その他一般施策&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 夢洲及び夢洲周辺の魅力向上 （国際観光拠点における人・水・木の調和、整備など、夢洲等の魅力向上に関する取組）</li> <li>▶ 観光の振興に関する取組 （観光客の誘引・滞在期間の延長、観光客の消費の促進、観光客の滞在期間の延長、観光客の消費の促進、観光客の滞在期間の延長、観光客の消費の促進）</li> <li>▶ 地域経済の振興に関する取組 （地元産品の消費、地元企業・中小企業の支援、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進、観光客の消費の促進）</li> <li>▶ 社会福祉の増進に関する取組 （子育て、教育環境の充実、健康・医療、住居の暮らしを守る取組、等）</li> <li>▶ 文化芸術の振興に関する取組 （大阪府・大阪市の施設への貢献）</li> </ul> <p>府民・市民の暮らしの充実、次の成長に向けて投資</p>
使途	毎年の必要経費												
キーンル等依存症対策（大阪府・大阪市） （CATSを中心とした新規・拡充事業）	約14億円												
警備強化（大阪府） （警備力の確保・増強・訓練、 市内の警備用具等（約340人体制））	約33億円												
夢洲エリアの防犯（大阪府） （I R 立地に関連した必要事項の維持管理）	約4億円												
消防強化（大阪府） （夢洲消防拠点の設置・運営（約40人体制））	約4億円												
合計	約55億円												

（注）\* 大阪・関西国際空港整備と観光客誘引施設の整備に関する計画について（概要）より

ただし、これらを実現していくために何が問題かと言いますと、整備した納付金というのが約1,000億円出てきますので、こういうのを依存症対策とか観光とか教育に使うことになります。

### I R による大阪のさらなる成長に向けて

○ I R 開業による地域経済への効果

	建設時	運営時
経済波及効果	約2兆3,700億円	約1兆1,400億円
雇用創出効果	約17.5万人	約9.3万人
地元消費額	約1兆3,100億円	約2,600億円/年
雇用者数（I R施設）	約1.5万人	

（その他）I R 納付金・入場料収入…約1,060億円

○ I R 開業に向けた諸課題の解決

- I R を核とした地域経済への波及
  - IR 開業施設における日本の観光シェークス機能の強化
  - 高品質観光客の誘引
- 国際観光拠点としての世界水準 MICE 施設の設置
  - 観光客の誘引・滞在期間の延長、観光客の消費の促進、観光客の滞在期間の延長、観光客の消費の促進、観光客の滞在期間の延長、観光客の消費の促進
- サービス産業の多様化、高度化
  - 約900の職種（日本に存在しない新たな職種が約300種）を担う約1.5万人に及ぶ人材の育成と確保
- IR 従事者の仕送り及び教育現場の整備
  - 約1.5万人の海外人材を含めた従事者の住居確保
  - インターナショナルスクール等の設置など
- 交通ネットワーク整備の誘致・促進
  - 府県間延伸、京阪中之島線延伸をはじめ、IR 及び夢洲2期 IUA から市内に繋がる新たな交通ネットワーク（コンド、BRT 等）の検討
  - 徒歩、バス、タクシー等の送客の効率化
  - 大阪湾内陸域延伸や周辺エリア一帯等の道路整備
- 大阪ベイエリアの活性化・再生
  - 市内ベイエリアから後背圏への経済効果の波及を見越した開発

54

もうあとわずか、5年しかないんですが、諸問題の解決についてです。1つはIR施設だけが儲かって他が全く儲からないということを回避するために、IR施設と他との連携が必要になってきます。来たお客さんをいかに周辺地域もしくは関西エリアに送客していくのか。2つ目がMICEです。MICEが、今後新たにできる施設と既存の施設が一緒になって早急に誘致活動をしなくちゃいけないというのがあります。そして3つ目がサービス産業の多様化、高度化。900種類の職種が生まれて、そのうちの約300種類が新しい職種です。こういうものを雇用するための人材育成の仕組みや計画は必要になってきます。4つ目、住民、IR施設に雇用される人、こういう方々の住宅、そして教育環境を作らなくちゃいけないというのがあります。5つ目、交通ネットワークですね。これも今から陸、海、空、特に私が心配している鉄道も整備を急ぐ必要があります。6つ目、ベイエリアは、IRと夢洲2期だけではなくて、舞洲、夢洲、咲洲も含めた総合的な絵を描く必要があるということです。

以上、長々と述べましたが、皆様のご努力でここまで来たんです。ホップ、ステップまで。いよいよ次のジャンプの時期に来てるということですね。こういうチャンスがあるので、是非、大阪から世界的な視野を持って日本を変えていく。そういう思いで、皆様の企業1つ1つが「シンク・グローバリー、アクト・ローカル」の精神で夢を持って、チャレンジしていく。そこにはこの都市の持っている誇り、1500年一国の地を取り込んできた歴史、多様性、義理人情、礼節、温故知新の精神を持った思いやりのある地域、そして関西の雄としてのリーダーシップをしっかりと肝に銘じて、これからの5年間、これを万博で培った「世界を一つ」というマインドをさらに未来に向け、ホップ・ステップ・ジャンプに踏み込む。そういう大事な5年間になると思っております。これまで関わっていただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、これからの5年間、大阪がもう一回、あるべき世界の立ち位置を作っていく。そこに必要なのは大阪だけではなくて、世界を平和にする、日本各地を幸せにする、それぐらいの大きい心を持って、それぞれの立場で活動していただけたらと思っています。

お時間来ましたので以上で終わらせていただきます。どうも今日はありがとうございました。

（終了）